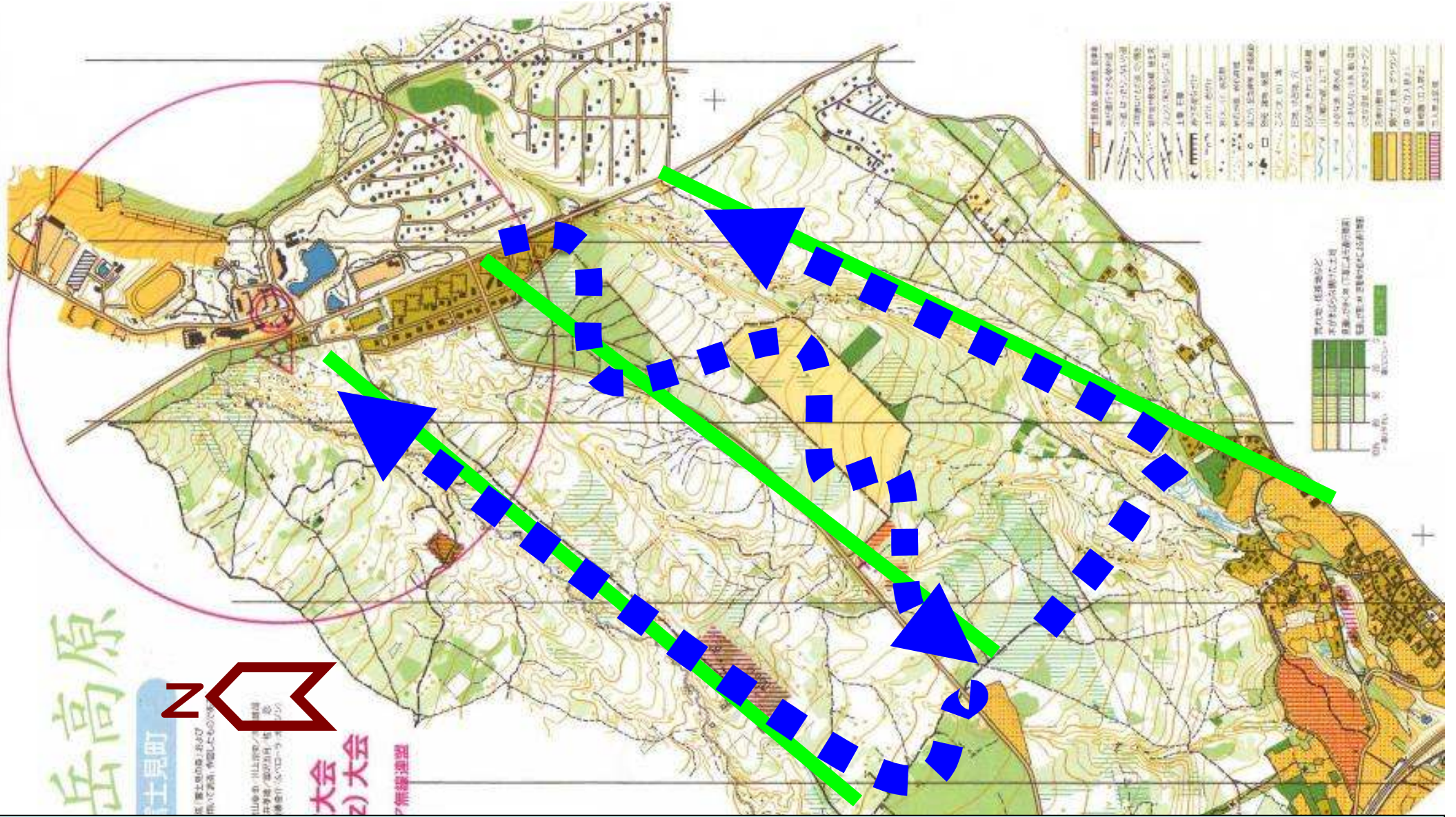


初めに

このドキュメントは、ARDF競技に参加したときに、私がどういう場面でどういう判断をしたかを記憶を頼りに記録したものです。

従って、「こうすべき」という正解を記載したものではありません。

ARDFに参加した一競技者の話として、主に初心者の皆さんの役に立てられればと思って作成いたしました。

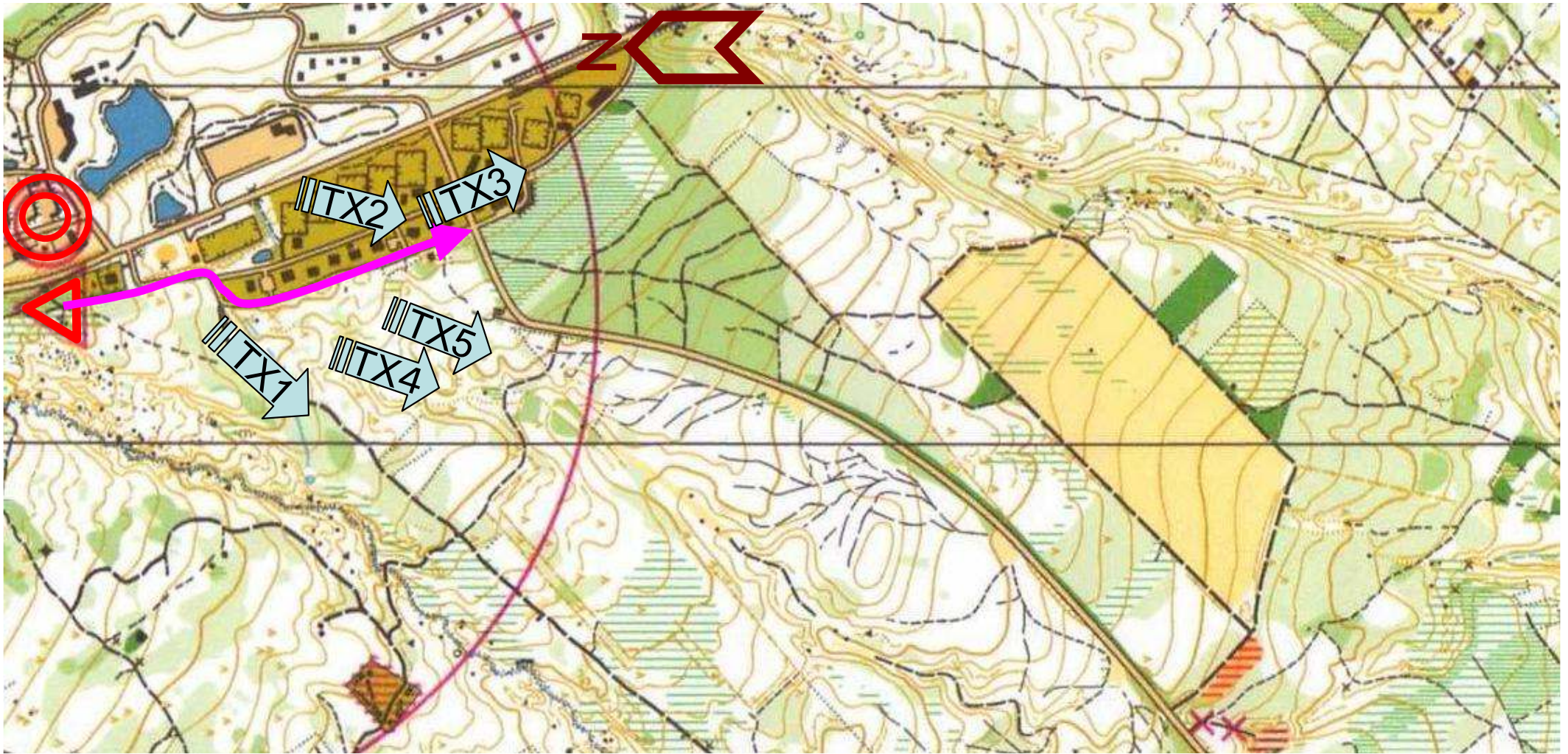


①スタート前の地図読み

スタート・ゴールが最高標高かつ同一箇所なので、制限時間2時間及び全日本大会ということを考えるとスタートから最遠地点までの距離はさほど長くない。おそらく地図右下半分は使用しないと予測。上り下りのメイン道路は3本。トレイン中央部は左右に比較的移動し易いが、東西の上り下り道路は一本道だ。従って、トレイン中央部をジグザグに下り、東西端のどちらかの道路で登ってくる作戦を立てる。

②探索開始地点

止まらずに予定のコースを進みながら方探。TX1のみが西端の道のようにだ。TX4,5はメイントレイン方向。TX2,3はトレイン南東よりだ。TX3が最も強くほぼ同標高であるため、第一ターゲットをTX3とする。この段階ではなるべく坂をくだらないことが肝要だ。



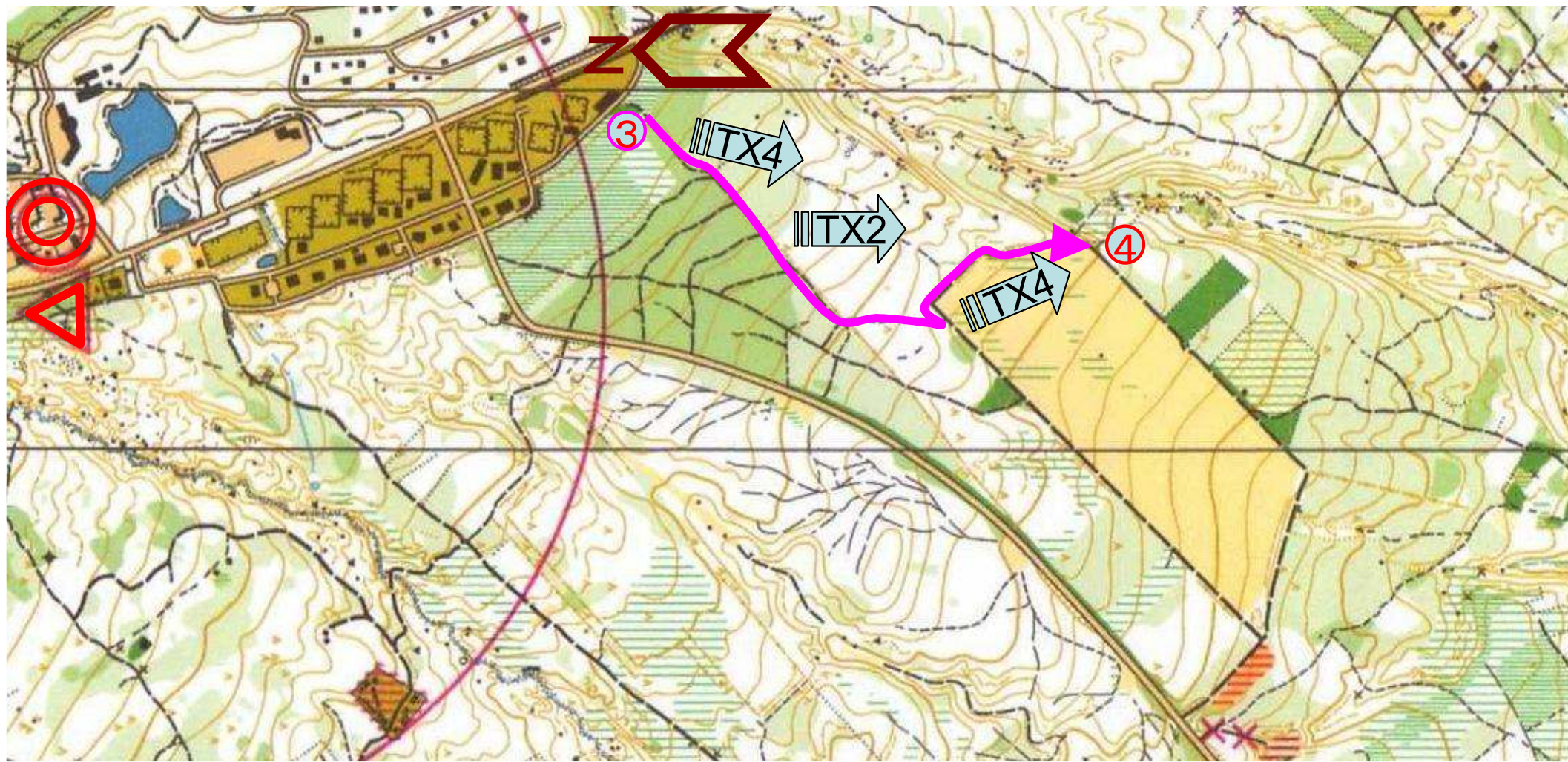
③TX3

判断ポイントはA交差点。なぜなら、メインレインに下るか最東の道に進まなければならないかの判断分岐点であるからだ。A交差点でTX3を聞けるように速度を調整し、A交差点でTX3を待つ。鳴いた。至近距離だ。フラッグめがけて飛び込んでいくと、正面のダンゴウから審判員とPressの植木さんがヌツと立ち上がる。TX3ゲット



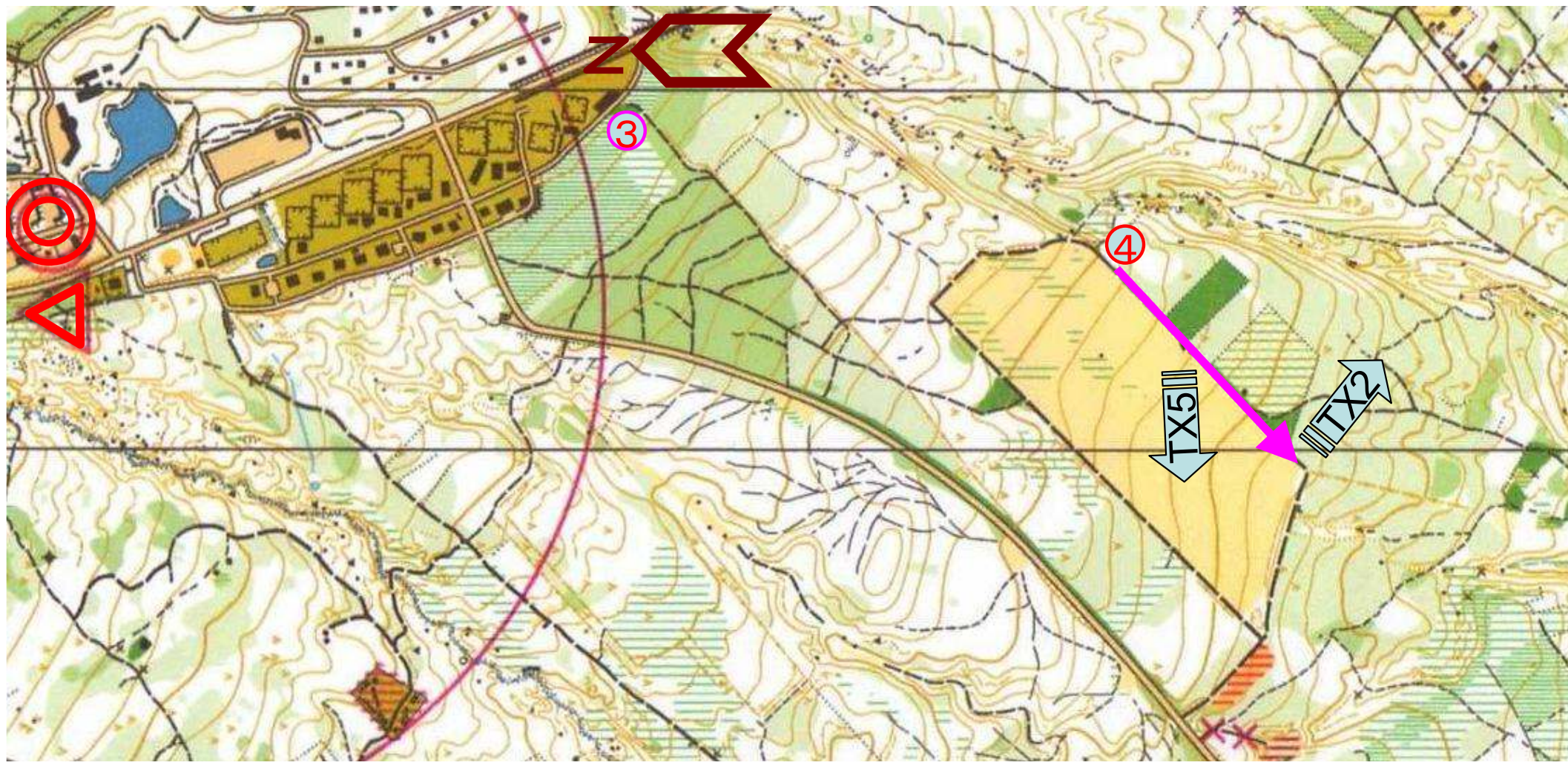
④TX4

TX4はさらに南下した原っぱ方向だ。原っぱの外周道路に入ったところで原っぱの反対側に方探できた。その付近に到着すると松本ナンバーの1BOXカー。この付近に違いない。やぶの奥にフラッグを発見。目視でTX4ゲット。



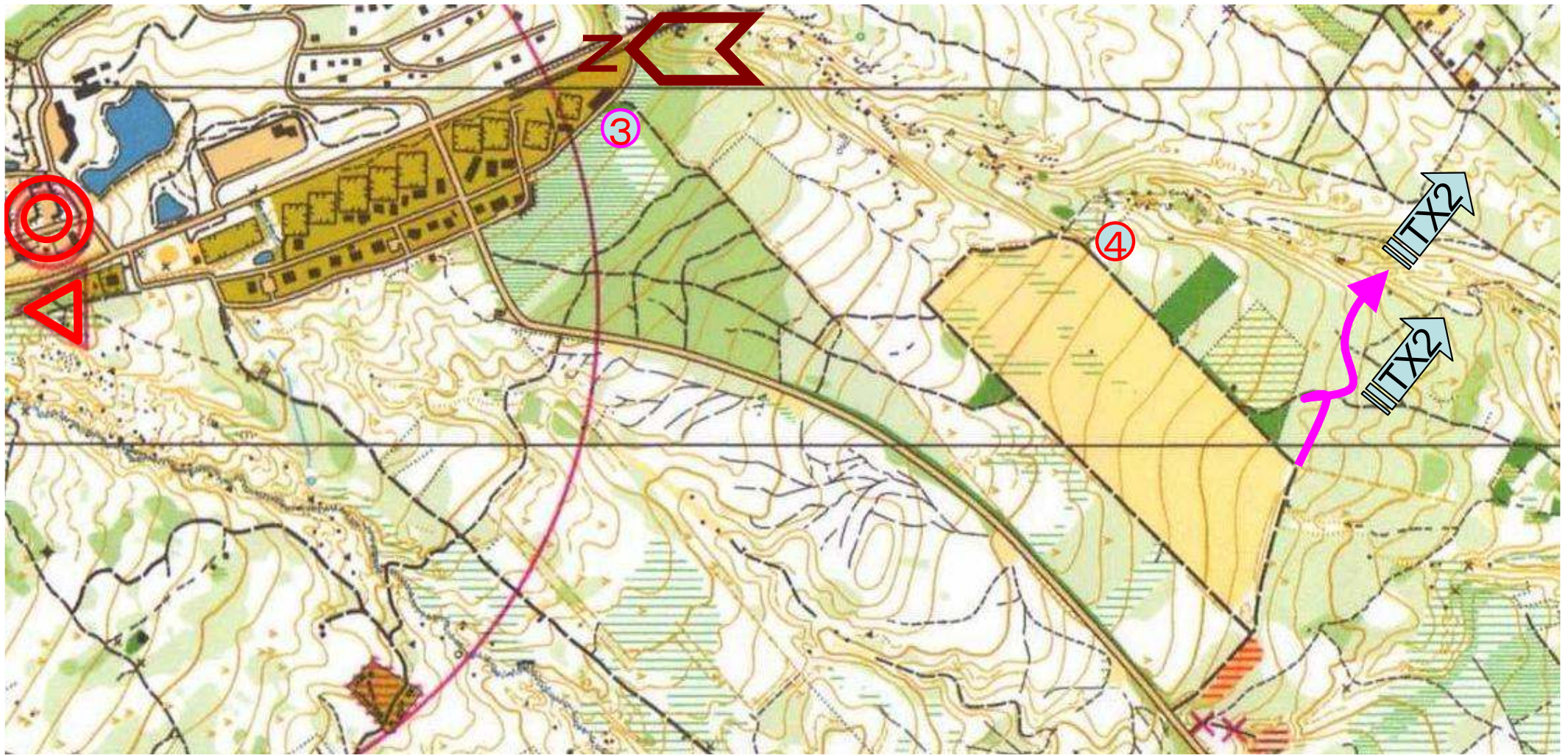
⑤TX2をどうする

TX5は原っぱの南西端にある。電波障害物がないので、方向は正確。目標の木を見定めて記憶する。自分には不要なTX2が比較的強い。判断に迷うが、比較的時間に余裕があるので、やぶに突入することにする。



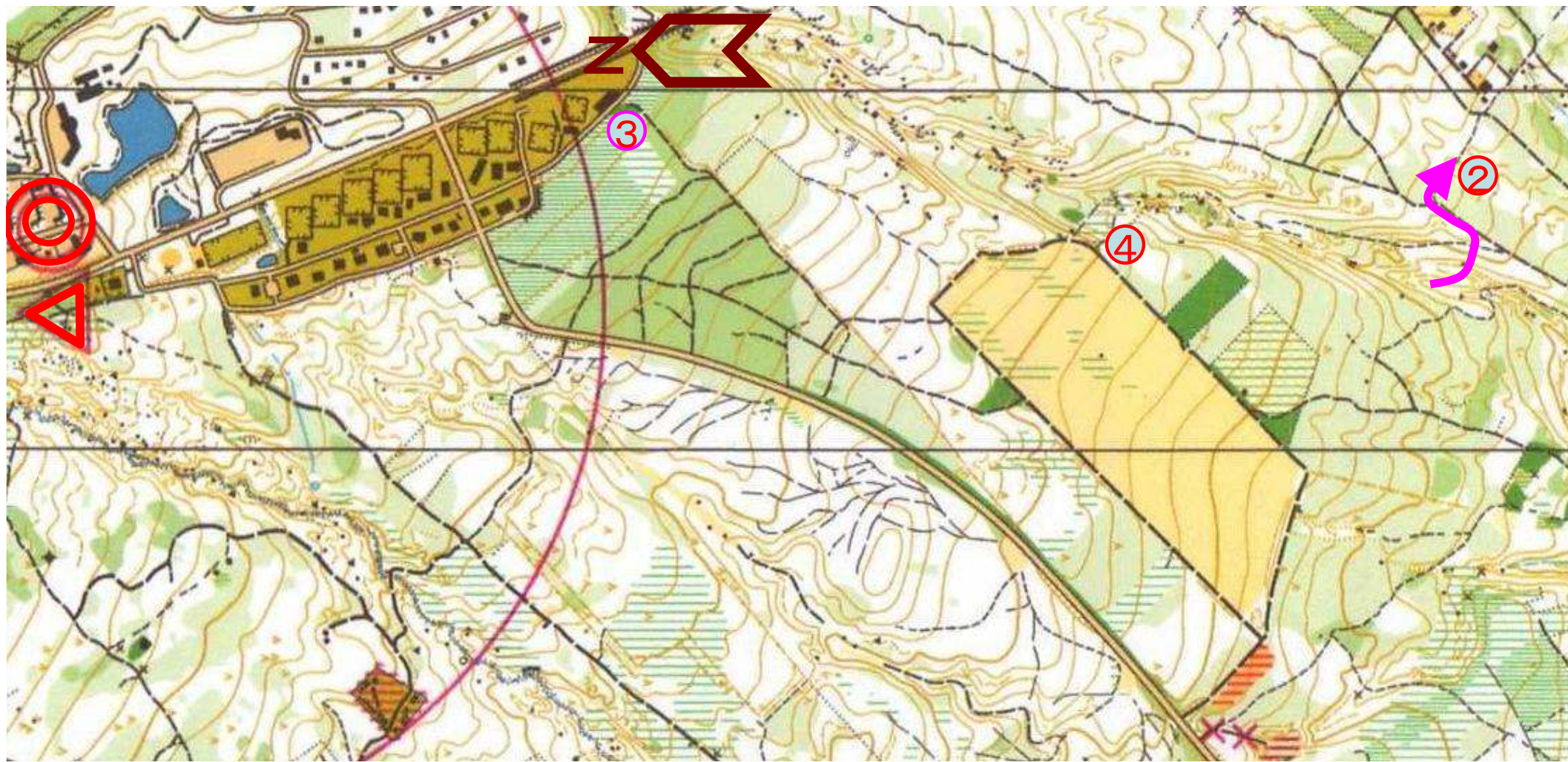
⑥谷を越えるか

まだ距離があるとは思ったが、道に出たところで念のため方探。やはりさらに東だ。またやぶに入り進むと地図にもはっきり書いてある深い谷に出た。こんなに来てしまってよいのだろうか。方探して谷の向こう側だったらあきらめて戻ることを考える。TX2が鳴く。やはり谷の向こうだが、強い。先ほどの決断を翻し、「折角ここまで来たのでもったいない」という気持ちが勝って、TX2を目指すことにする。



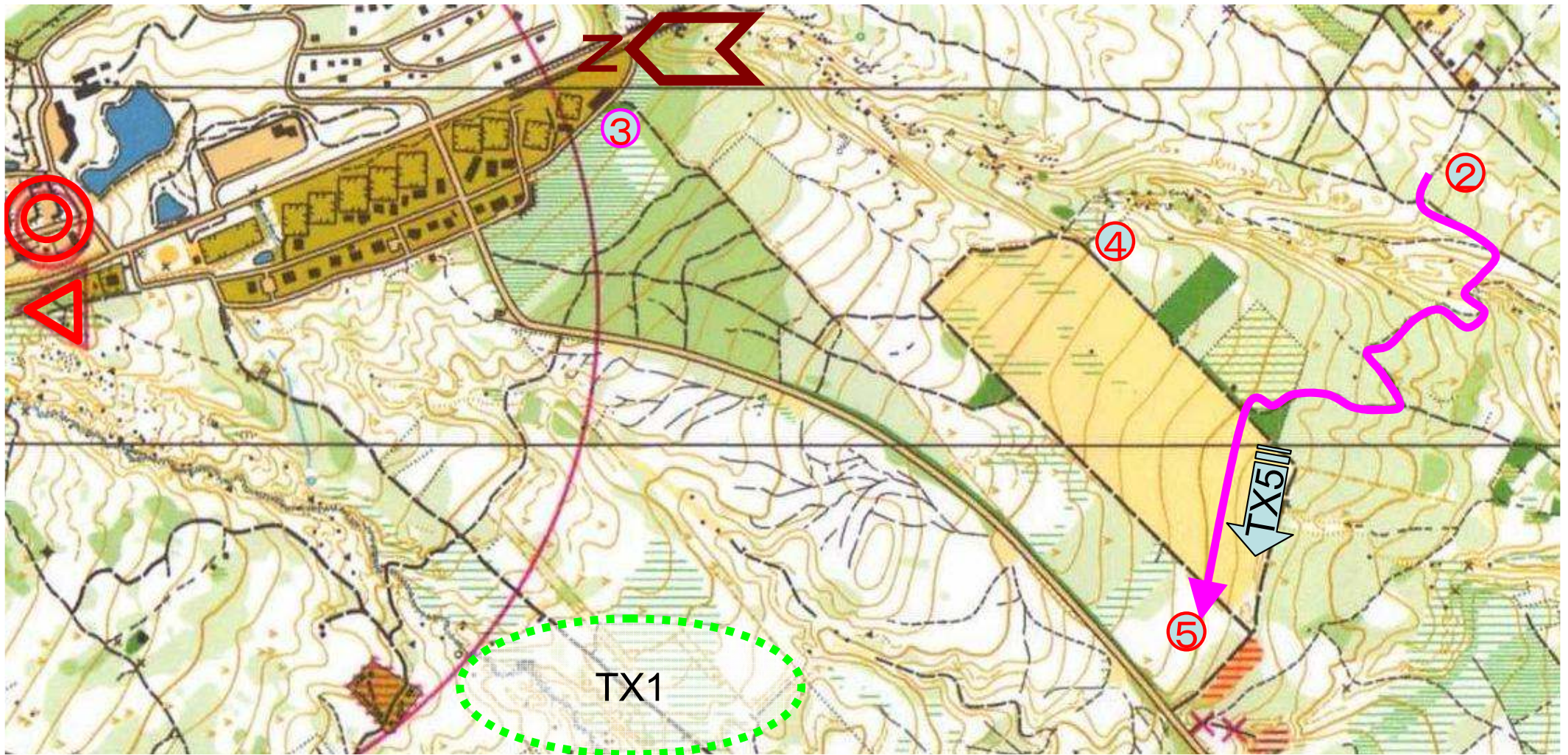
⑦TX2

谷を超えて道に出る。東に入る小道があったので、そこに入ったところでTX2が鳴く。ダッシュしてTX2をゲット。



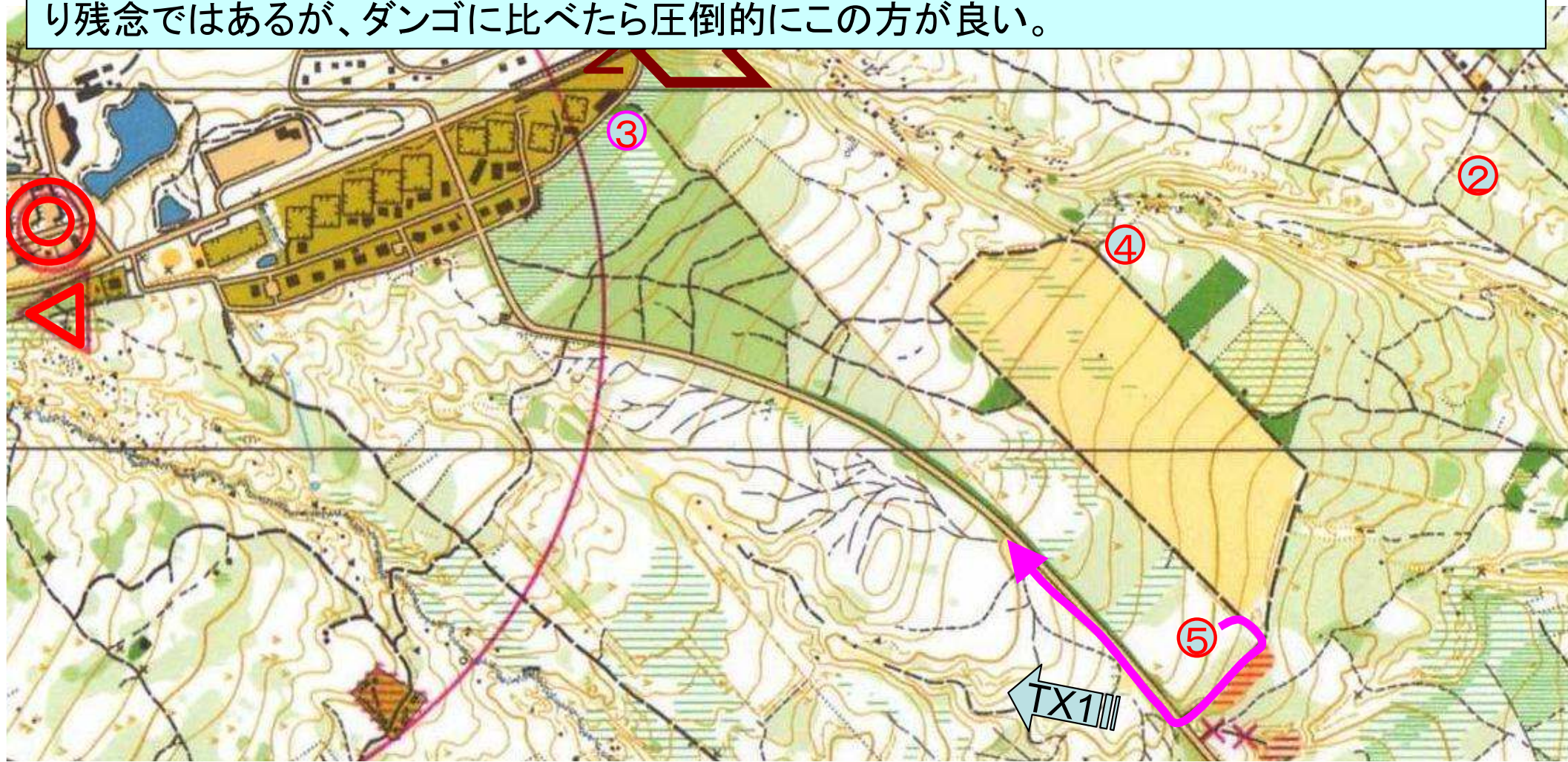
⑧TX5

なるべく道を通りながら、原っぱに戻り、先ほど記憶した木に向かって原っぱをまっすぐ横断する。TX1はテレイン西側のスタート円の近辺だ。しかしTX5からTX1へ直線に進むにはかなりの距離の藪コギが必要。地図を使わずにコンパスのみでの進行となるのか？初めての経験に近い「コンパスモード探索」にドコドキとともにワクワクする。原っぱの端に着き、藪に入りやすいところを探す。出入りした跡を見つけてそこから藪に入る。TX5ゲット



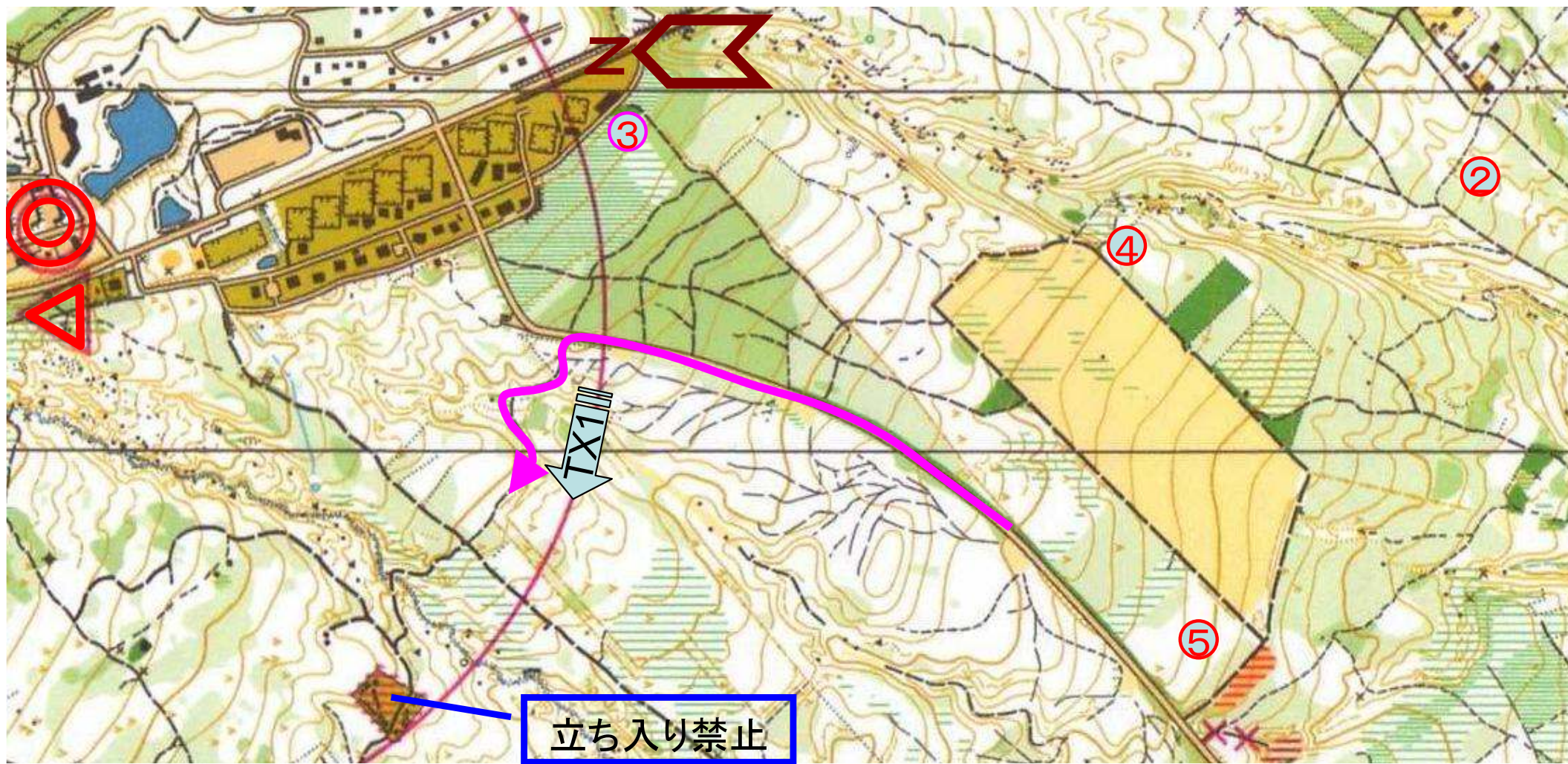
⑨延々と道を登る

原っぱに戻り道に出るとやはり松本ナンバーの1BOXカー。舗装道路に出てTX1を方探するとやはりスタート円付近だ。よって藪コギはやめてスタート円まで舗装道路を登って、それから西に行くことにする。コンパスモードが体験できなくなったので残念な気持ちと安堵感が錯綜する。北上する途中で静岡のS先生が西側の藪から出てくる。S先生が歩いているのは珍しい。何かあったのだろうか。本大会はスタート組人数が多く、TXで団子になることを覚悟していたが、競技者に会うことがほとんどなく、気持ちよくゲットできている。鳴いていないときでも目視でゲットできているからかもしれない。自分としては探索の面白みが少なくなり残念ではあるが、ダンゴに比べたら圧倒的にこの方が良い。



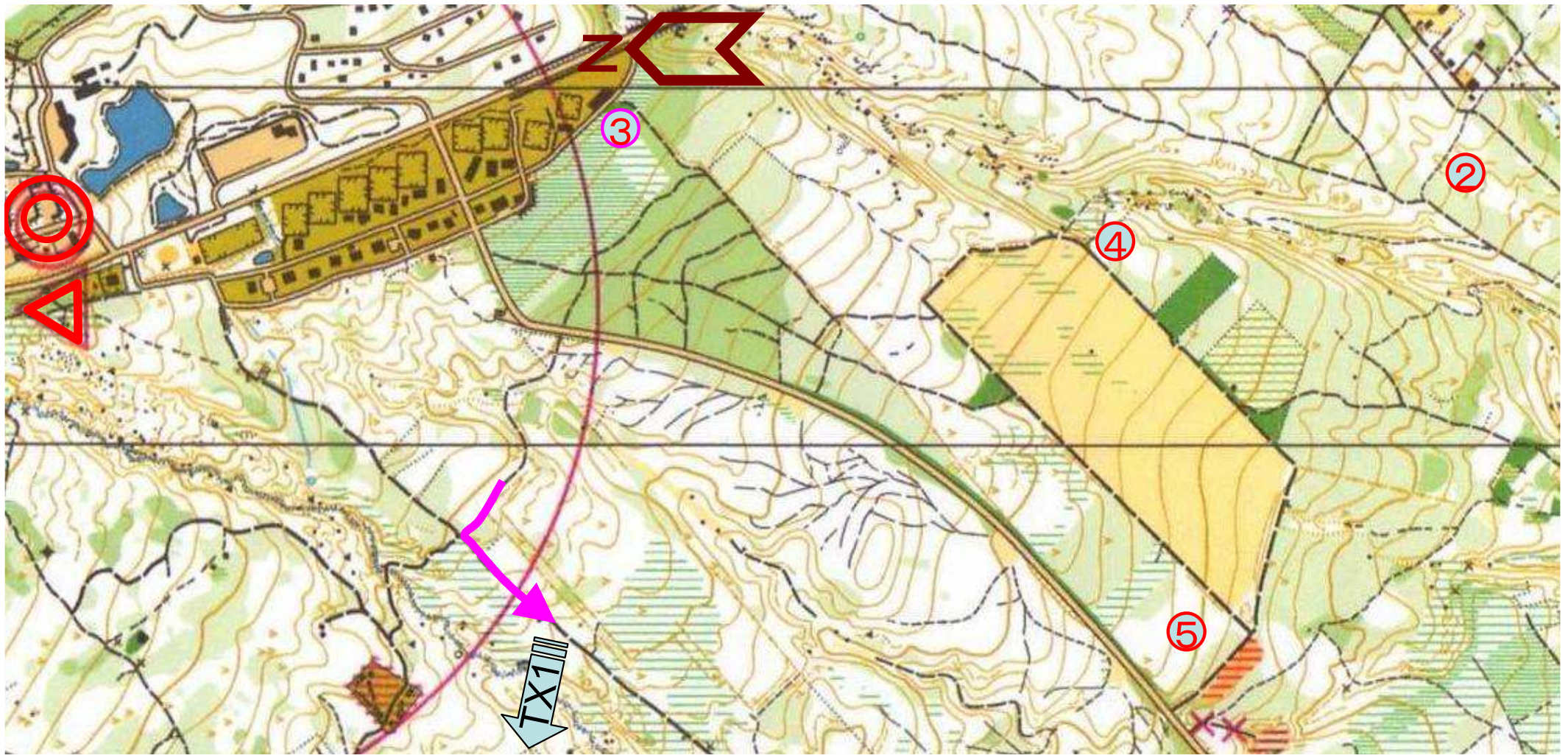
⑩西への道

スタート円まで北上し、西への道へと入る。最西端の道より西に行く道があるが、途中の民家があるところが立ち入り禁止となっている。民家の取り付け道(私道)とは思えないパターンなので、ここを通過させたくないという主催者の何らかの意図を感じる。よってこの道沿いにはないと判断。



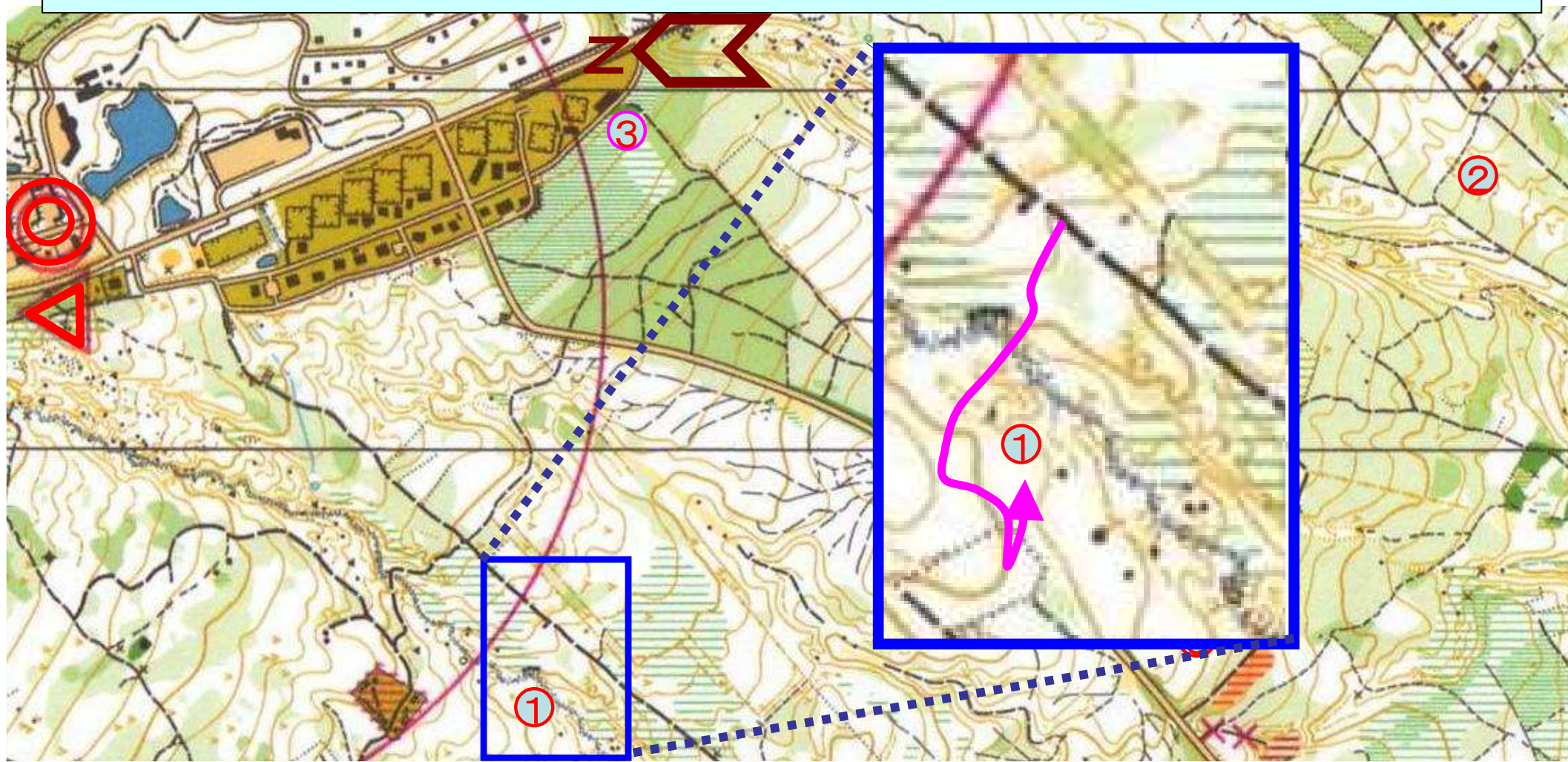
⑪道を下る

注意深く道を下る。下りなので行き過ぎたら致命的だ。TX1が鳴く。西の笹藪方向だ。山上さんがその方向から出てくる。TX1をゲットしてきたのだろうか。笹藪なので正直、入りたくなかったが、コンパスモードで笹藪に突入する。



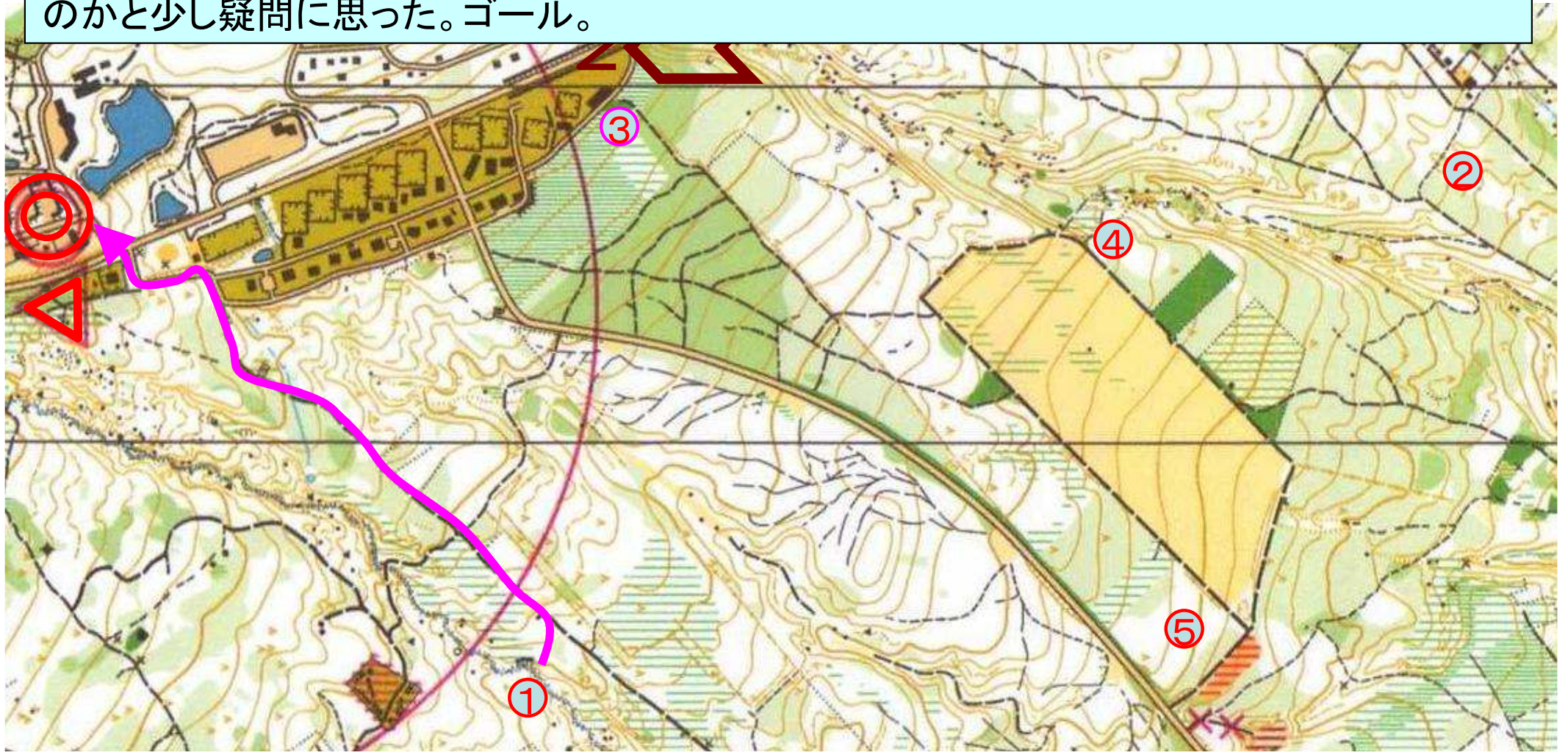
⑫TX1

間もなく、谷に出る。次の鳴動時刻までには反対側の土手に上がれそうだったので、谷を渡り土手に上がる。TX1が鳴いたと思った瞬間左の視界に白い影が。純白のウェアを着た審判員のMさんだ。なんだこんなところにあっただのか。「ご苦労様です」と声をかけ、Mさんが見ている方向へと進む。10秒ほどとぼとぼ進むがフラッグがない。ヤバイ。油断した。今鳴いているのに。あわてて方探する。間に合うか。後ろだ。フラッグはMさんの背後にあった。やられた。Mさんは「してやったり」というにんまり顔をしてこちらを見ている。TX1ゲット。

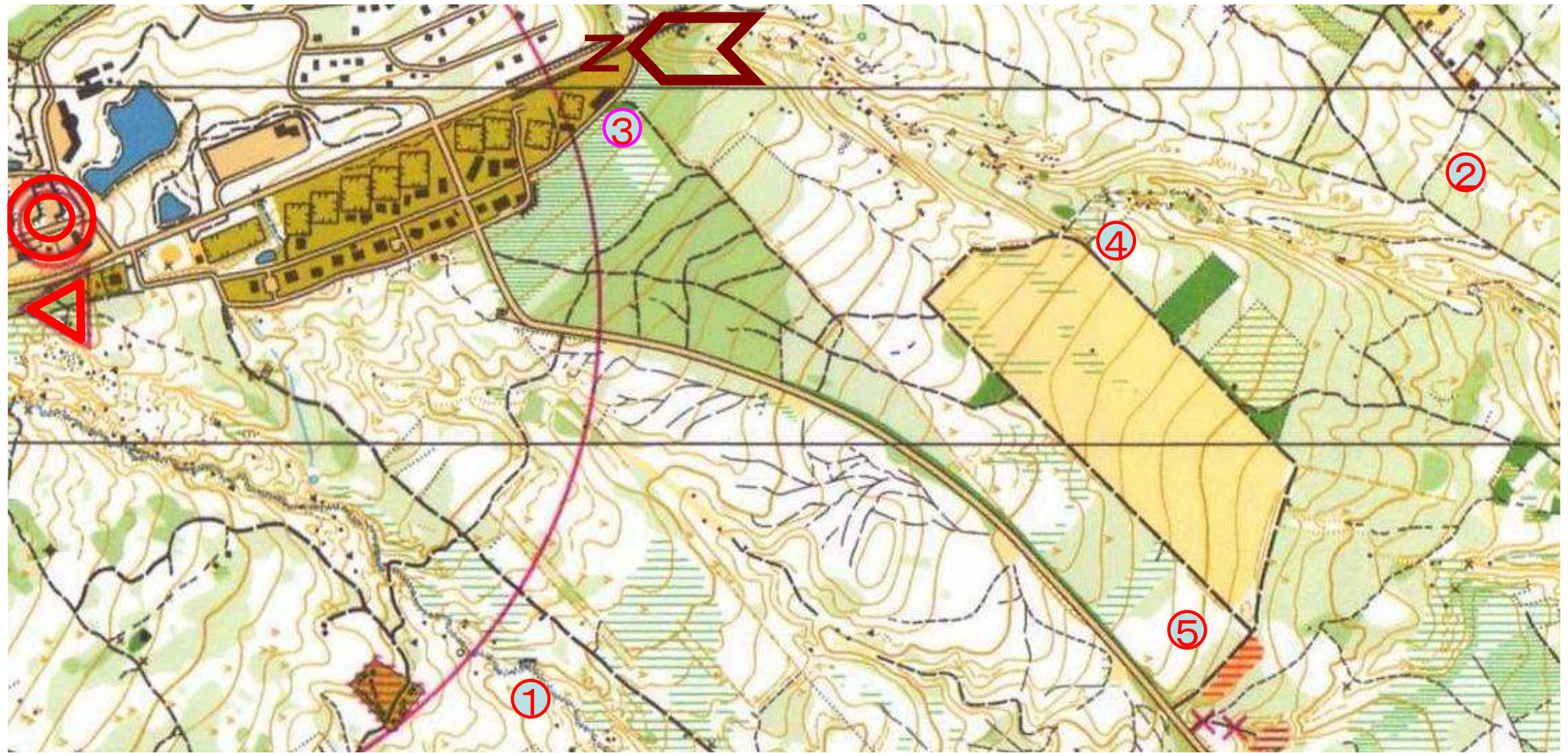


⑬ゴールへ

坂を走って登る気持ちは最初からない。「成績と命とどちらが大切か」などと都合の良い自問自答をする。地図のビーコン位置を確かめて進む。前方で直接会場のゴールに入ろうとした海外選手にスタッフが「ビーコン！」と言ってこちらを指さす。海外選手はこちらに走ってきてビーコン付近を「ビーコン？、ビーコン？」と叫びながら探し回っている。ビーコンチェックを探しているようだったので、「Go straight. No problem」と言ってあげると、一目散にゴールに駆けていった。過去の全日本大会でも経験したことだが、国際大会ルールに近いとはいえ、日本のゴール設置方法及びローカルルールなどが海外選手にどの程度伝わっているのかと少し疑問に思った。ゴール。



おわり



反省

◇審判員のMさんにはやられた。というか自分が油断していた。次はリベンジだ。

◇全国大会なのに終始歩いてしまった。しかし、坂道はつらい。